



2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年10月25日

株式会社トーメンデバイス

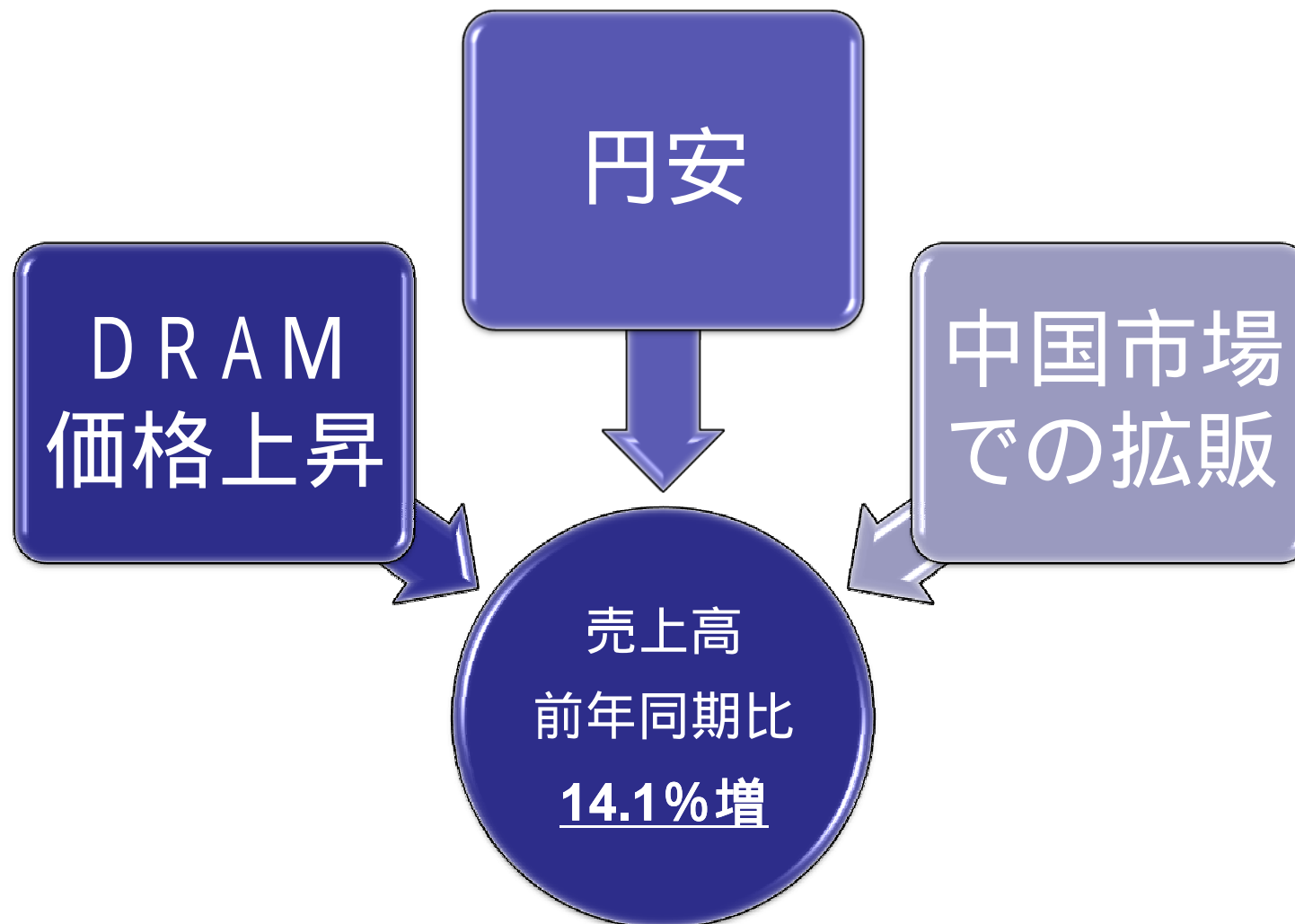
本資料に掲載されている株式会社トームンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

第2四半期 決算概況

2013年度 見通し

今後の取り組み

第2四半期決算トピック

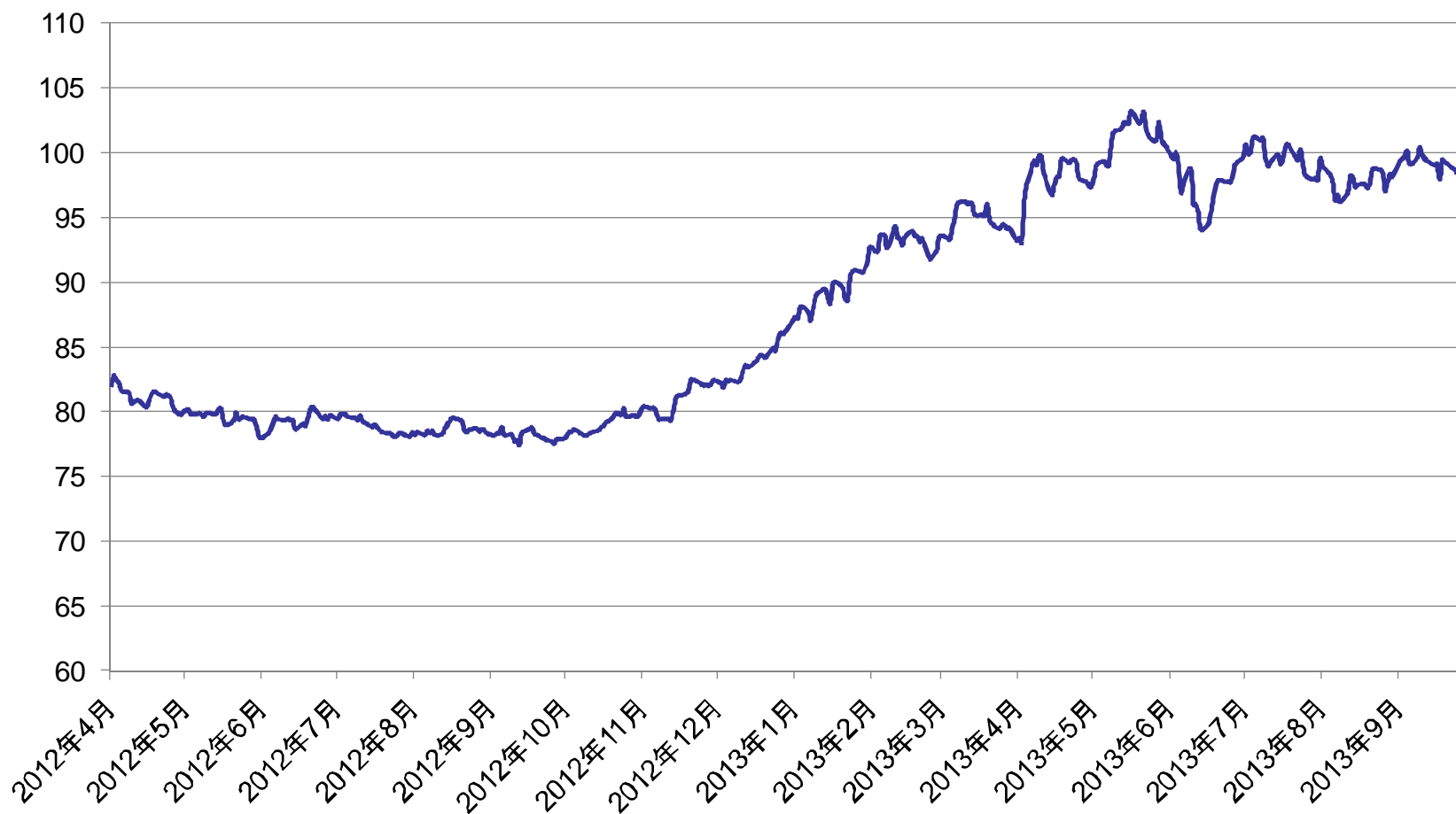


為替レート推移 ('12年4月1日 ~ '13年9月30日)



アベノミクス効果による円安傾向の継続。

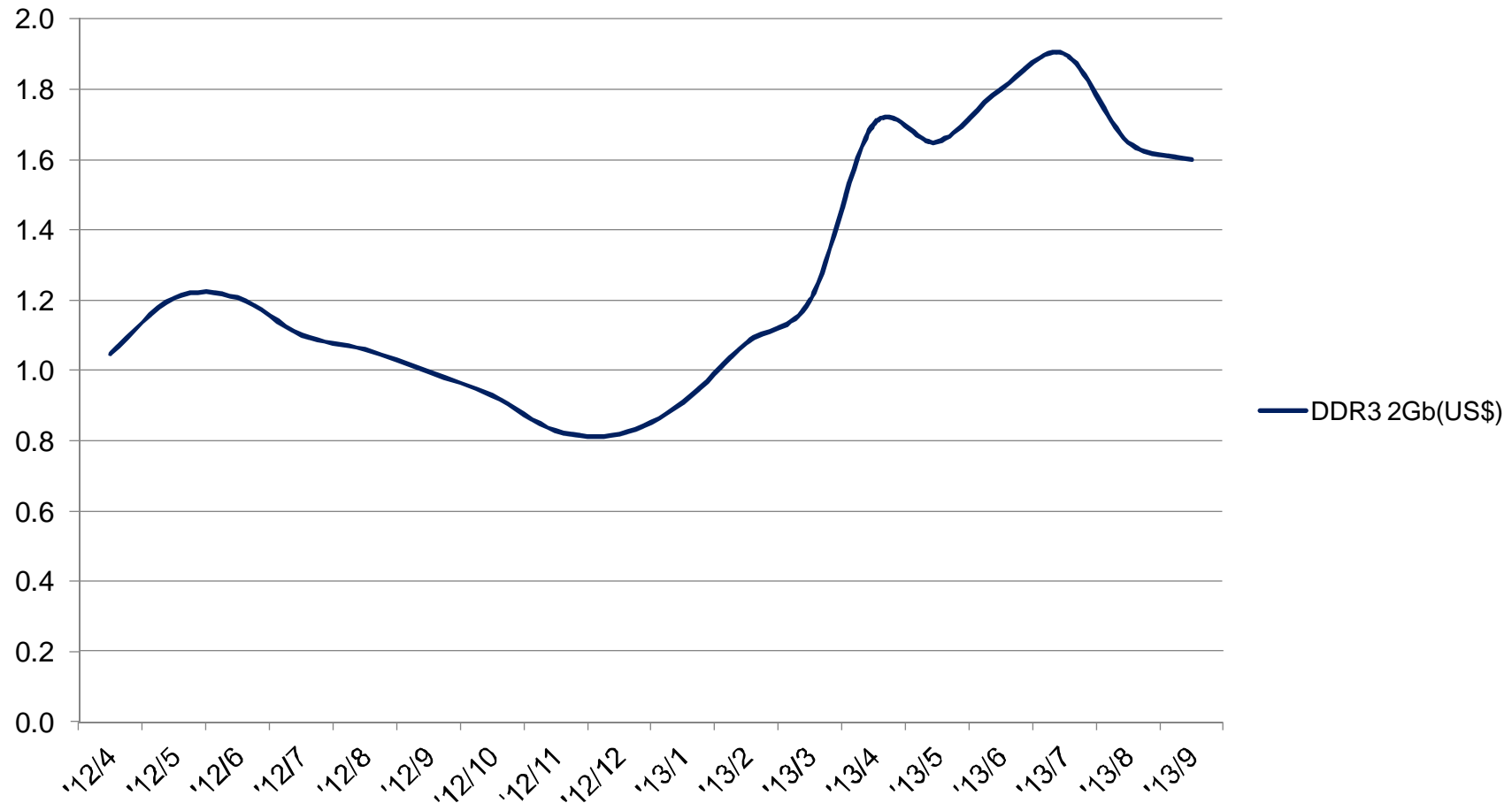
(アメリカ ドル / 日本 円)



DRAM価格推移 ('12年4月 ~ '13年9月)



PC用DRAM価格が高水準で推移。



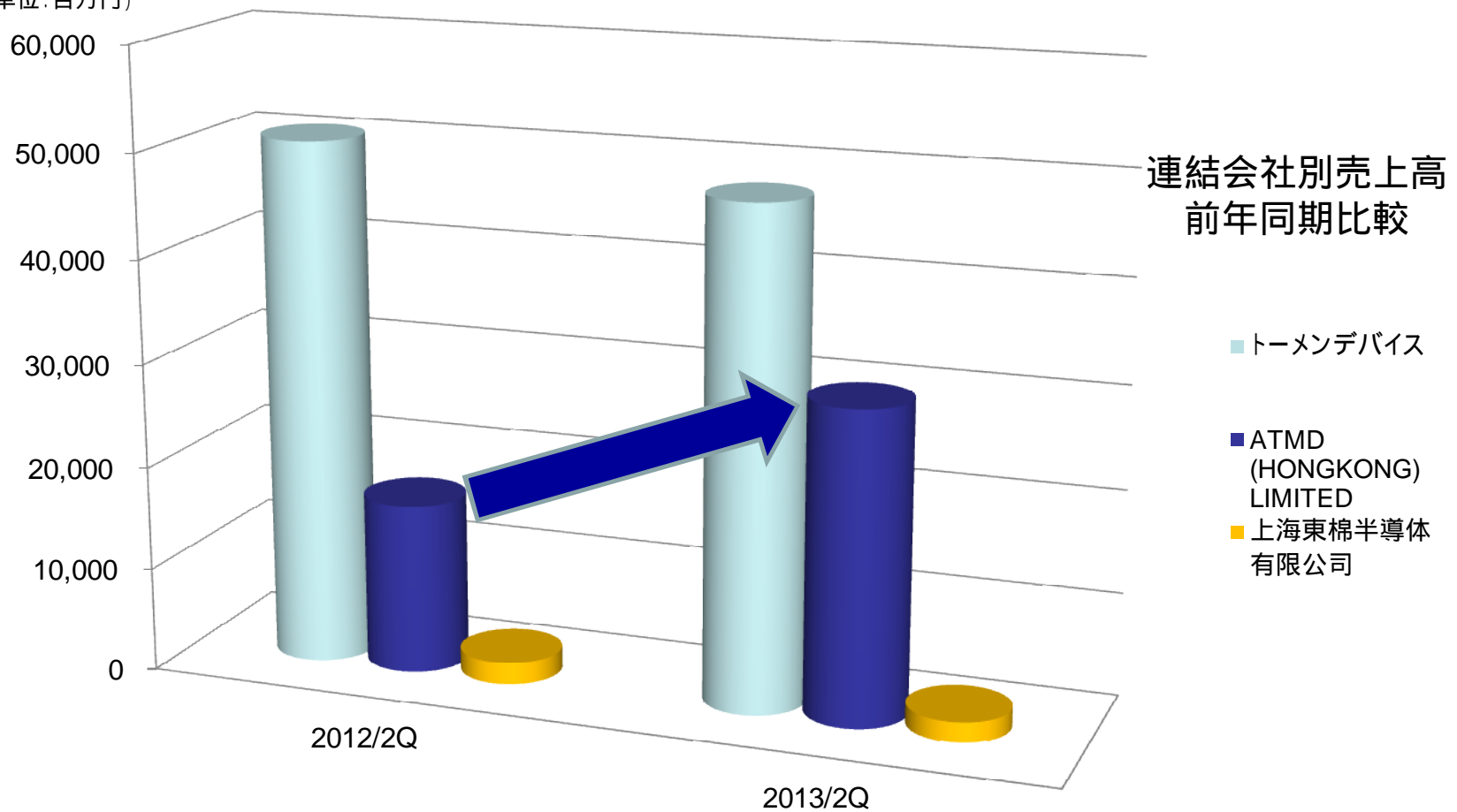
(出所) 各種資料をもとに当社で作成

中国ビジネスが拡大



中国ビジネスをATMD社に集約し、効率化・拡大へ。

(単位:百万円)



連結業績サマリー



(単位:百万円)

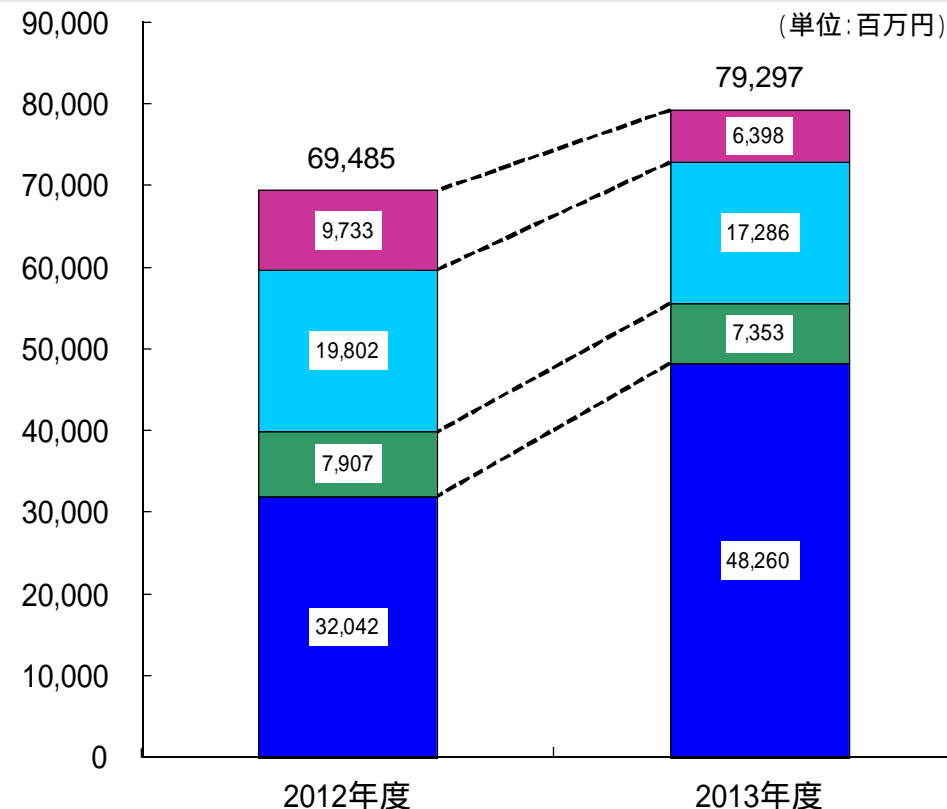
	2012年度 2Q	2013年度 2Q	増減額	増減比
売上高	69,485	79,297	+9,811	+14.1%
売上総利益	2,623	2,738	+114	+4.4%
営業利益	1,491	1,590	+99	+6.7%
経常利益	1,444	1,296	147	10.2%
当期純利益	901	703	197	22.0%
総資産	51,448	49,811	—	—
純資産	22,300	23,050	—	—
1株当たり純資産(円)	3,245.66	3,385.35	—	—
自己資本比率	42.9%	46.2%	—	—

中国市場向けが堅調に伸びるものの、会計処理変更の影響で経常利益及び当期純利益はマイナス。

商品別 売上高推移



(単位:百万円)	2012年度 2Q	2013年度 2Q	増減率 対前年比
メモリー	32,042	48,260	+50.6%
システム LSI	7,907	7,353	7.0%
液晶	19,802	17,286	12.7%
その他	9,733	6,398	34.3%
合計	69,485	79,297	+14.1%



メモリー

DRAM価格の高止まりと中国企業向けにFLASH拡販
デジカメ市場の停滞によるMCPの売上減

液晶

モニター用途向けの売上は堅調
PC、TV向けは価格競争激化の影響でマイナス

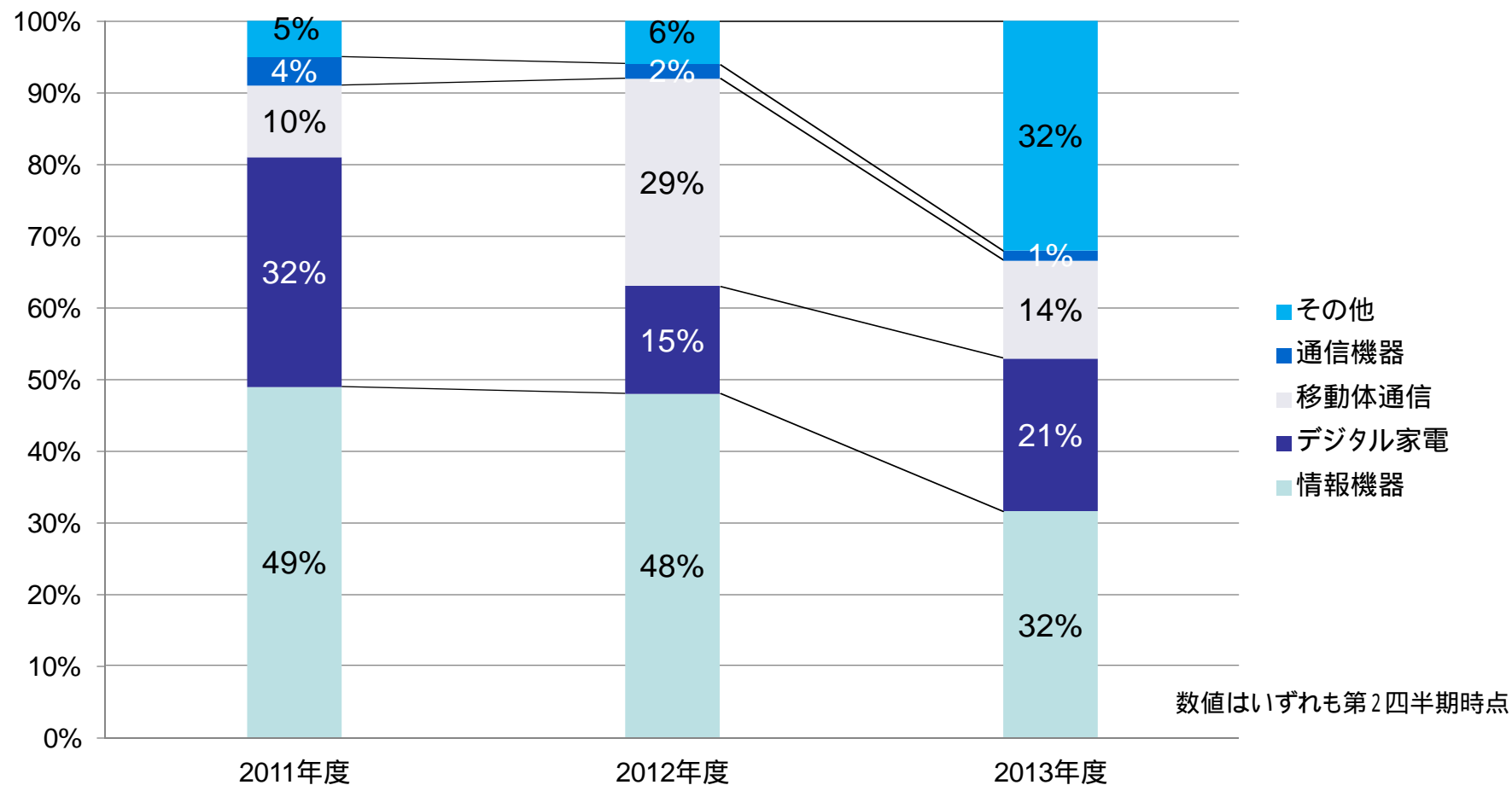
システムLSI

大型液晶向けDDIIは好調を維持
コンパクト型デジタルカメラ市場の収縮

その他

サムスン電機製商材の取り扱い開始
日系スマートフォンの不振により有機ELマイナス

用途別売上高の構成推移



その他	工作機械、カーナビ、アミューズメント、電子辞書、SDカード等
通信機器	移動体通信除く基地局等
移動体通信	携帯電話、スマートフォン等
デジタル家電	BD、デジカメ、テレビ等
情報機器	PC、タブレット、サーバー等関連機器

第2四半期 決算概況

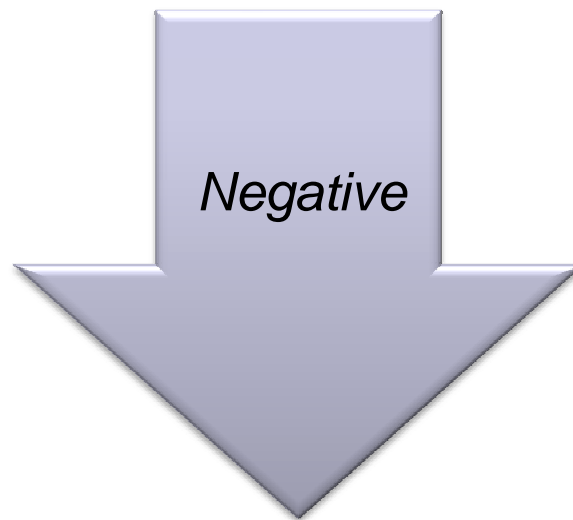
2013年度 見通し

今後の取り組み

2013年度後半の環境予想



- ・法人を中心に、PC買い替え需要の増加
- ・消費税up前の駆け込み需要への期待
- ・ソチ五輪、ブラジルW杯に向け、TVを中心とした家電需要の喚起
- ・勢いに陰りはあるものの、中国経済は成長を維持



- ・日系スマートフォン・タブレットメーカーの苦戦(減産、事業撤退等)
- ・タブレットの普及により、個人向けPCの需要にはさほど期待できず
- ・デジタルカメラの販売不振

2013年度計画



	12年度実績	4/24時点 連結業績予想	10/25時点 連結業績予想	増減	前期比
売上高	137,383	138,000	153,000	15,616	11.4%
営業利益	1,928	1,240	2,200	271	14.1%
経常利益	1,959	1,300	1,700	259	13.2%
当期純利益	1,194	780	980	214	18.0%
1株当たり 当期純利益(円)	175.63	114.68	144.08	—	—
1株当たり 配当金(円)	50	30	30	20	—

増減及び前期比は、10月25日時点連結業績予想と12年度実績を比較した数値

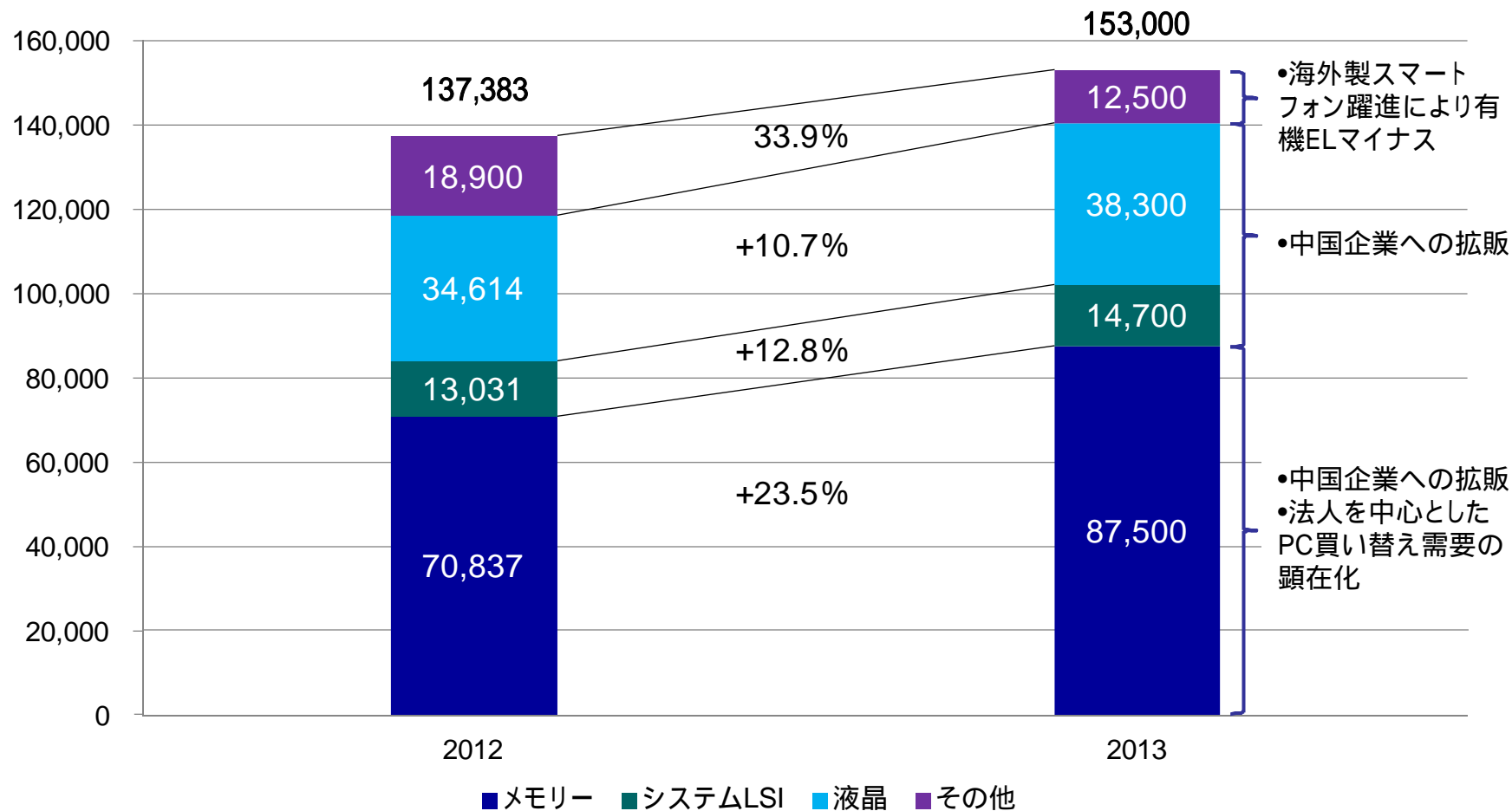
【上方修正の理由】

1. 設立2年目のATMD社の(中国市場)ビジネスの拡大
2. 円安効果
3. DRAM価格が引き続き強含み

商品別売上計画

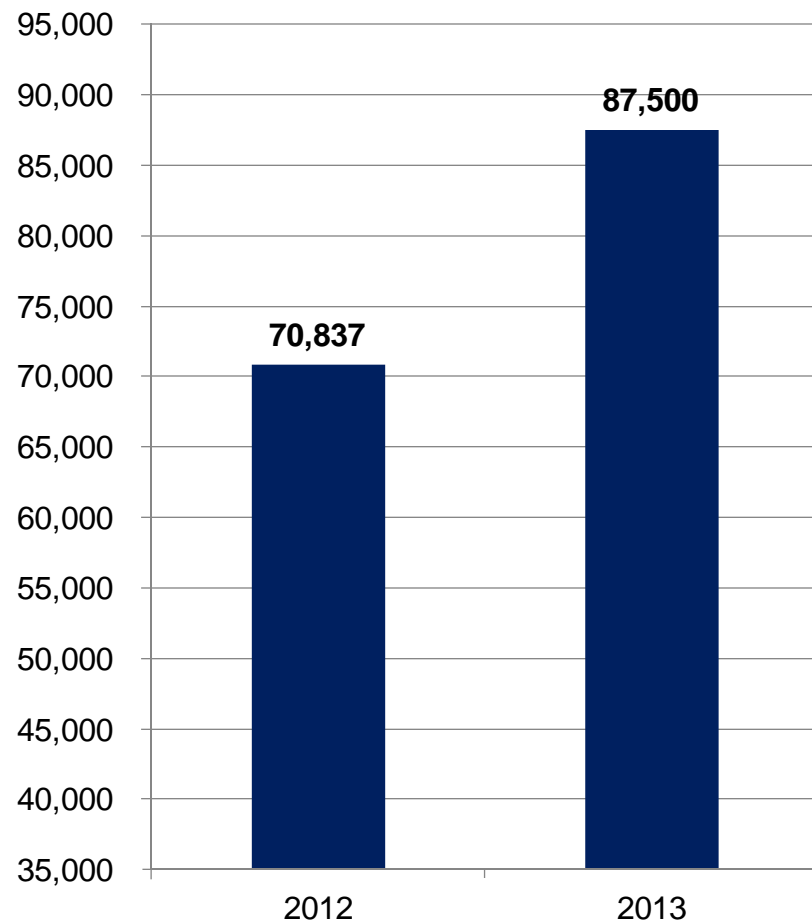


(単位:百万円)



メモリー分野

(単位: 百万円)



[環境・見通し]

- 競合社の火災事故による供給問題によりPC用DRAM需給は逼迫
- 日系携帯端末メーカーの不振により、携帯分野のメモリー需要はマイナス
- サーバー、ストレージ分野でのSSD採用増

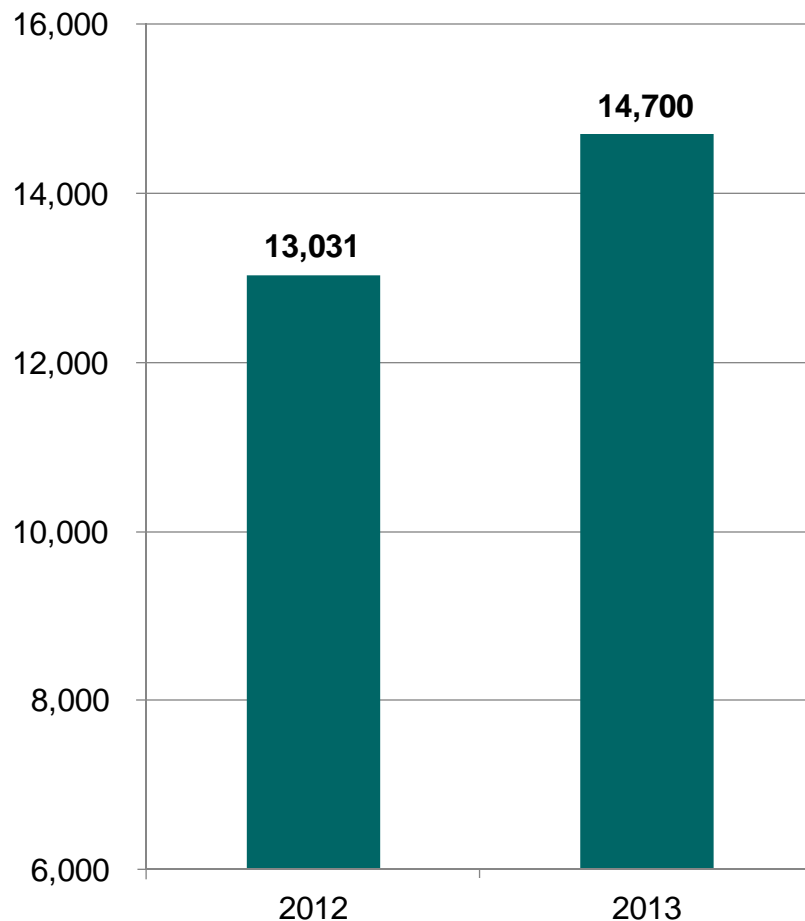
[当社の取り組み]

- 中国市場での拡販継続
- サーバー、ストレージ用途向けにSSDの拡販

システムLSI分野



(単位: 百万円)



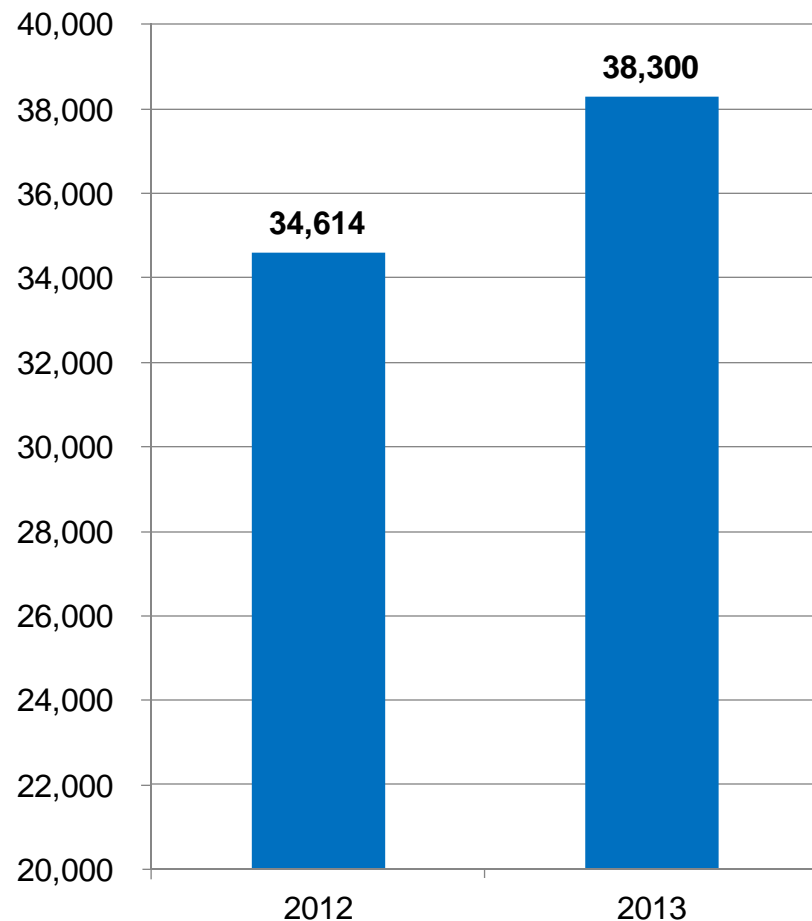
[環境・見通し]

- ハイエンドスマートフォン市場の成熟化によるAP需要に減速感
- ローエンドスマートフォン向け需要も中国経済の停滞により調整局面へ
- タブレットは堅調に伸びるものの、日系メーカーは苦戦

[当社の取り組み]

- 中国ローカル携帯端末メーカー中心に、ローエンドスマートフォン向けへAP、CIS等の拡販
- 大型液晶向けDDIの拡販継続
- 中小型液晶への積極的取り組み

(単位:百万円)



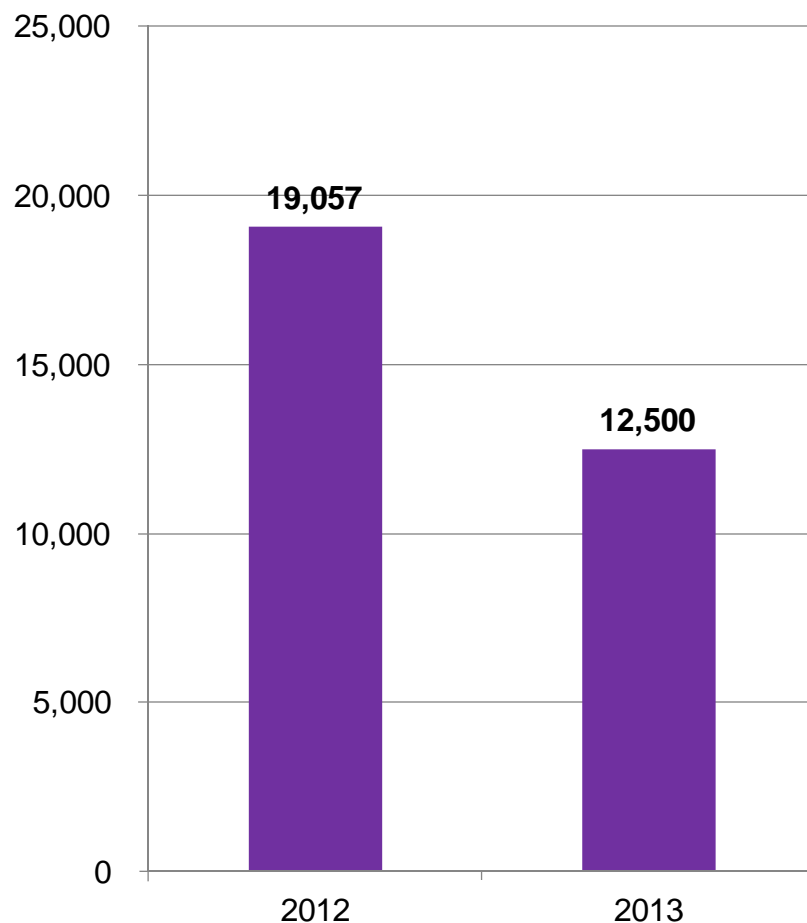
[環境・見通し]

- 供給過剰の継続と価格下落
- 世界的にテレビ需要が停滞
- PC買い替え需要、個人向けの盛り上がりには欠ける
- デジタルサイネージ市場は堅調な伸び

[当社の取り組み]

- 中国企業へのテレビ向けパネルの拡販継続
- デジタルサイネージ市場、高付加価値モニターへの拡販に注力

(単位: 百万円)



[環境・見通し]

- テレビ市場の低迷長期化により、バックライト用LED需要の低迷
- ハイエンドスマートフォンの減速及び日系スマートフォンのプレゼンスの低下により、有機EL採用の機会減少

[当社の取り組み]

- 照明、車載用LEDビジネスの実現に向けたアプローチの継続
- 有機ELの車載への採用に向けた提案を引き続き行う
- サムスン電機商材の拡販

本日の内容

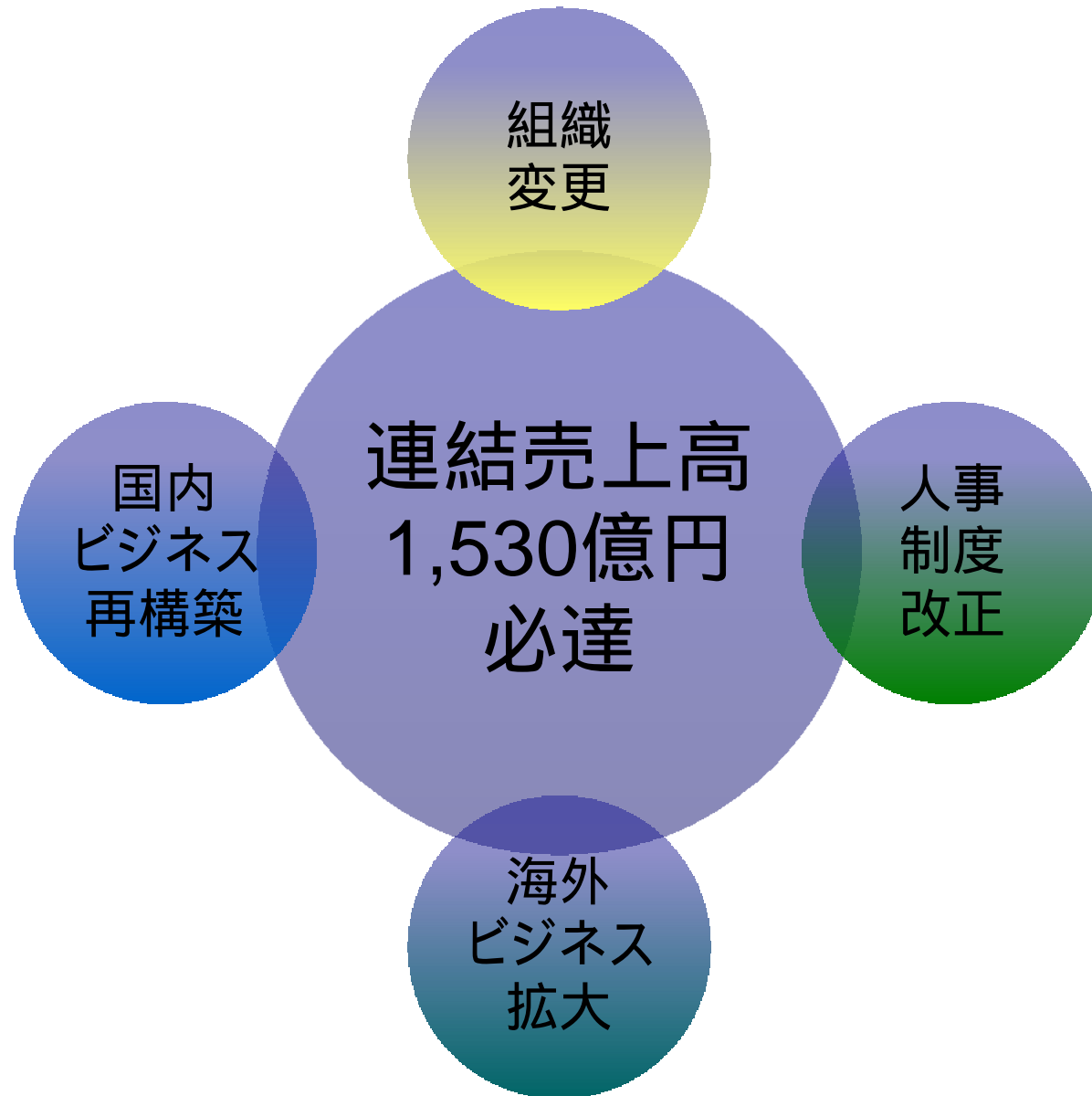


第2四半期 決算概況

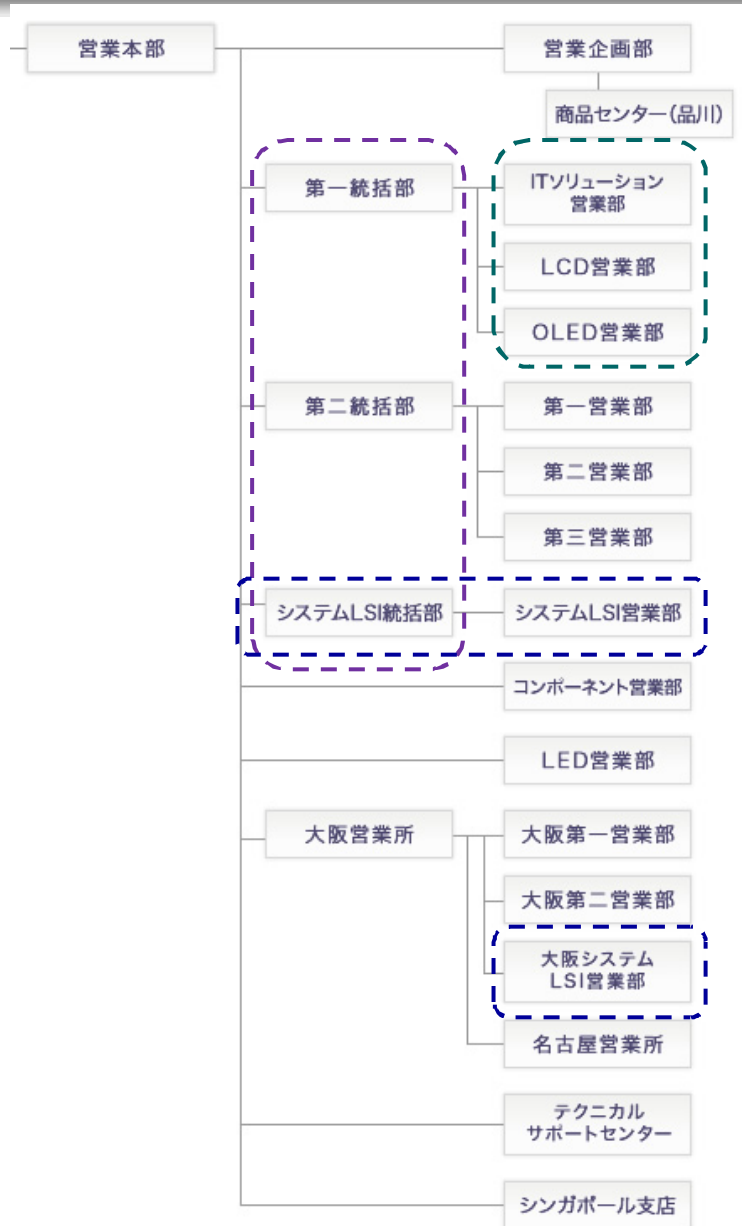
2013年度 見通し

今後の取り組み

売上高1,530億円(修正計画)の必達



下期からの新組織



営業本部下に「統括部」を設置

- 柔軟かつ機動的な営業活動を実行

ITソリューション営業部及びOLED営業部の新設

- PC、サーバー、携帯を包括的に扱い、トータルソリューションを実施
- LCDと有機EL双方からの提案を実施

システムLSI統括部、(大阪)システムLSI営業部の新設

- システムLSI分野及びサムスン電機商材販売の強化
- 関西エリアのシステムLSIの拡販

人事制度改革による士気の向上

希望退職者募集を実施。筋肉質の経営の下、業績回復及び更なる成長に向け、人事政策を見直し。



国内

- 成長性、競争力のある分野
(サーバー向けSSD、車載、
デジタルカメラ、4Kテレビ等)
への注力

海外

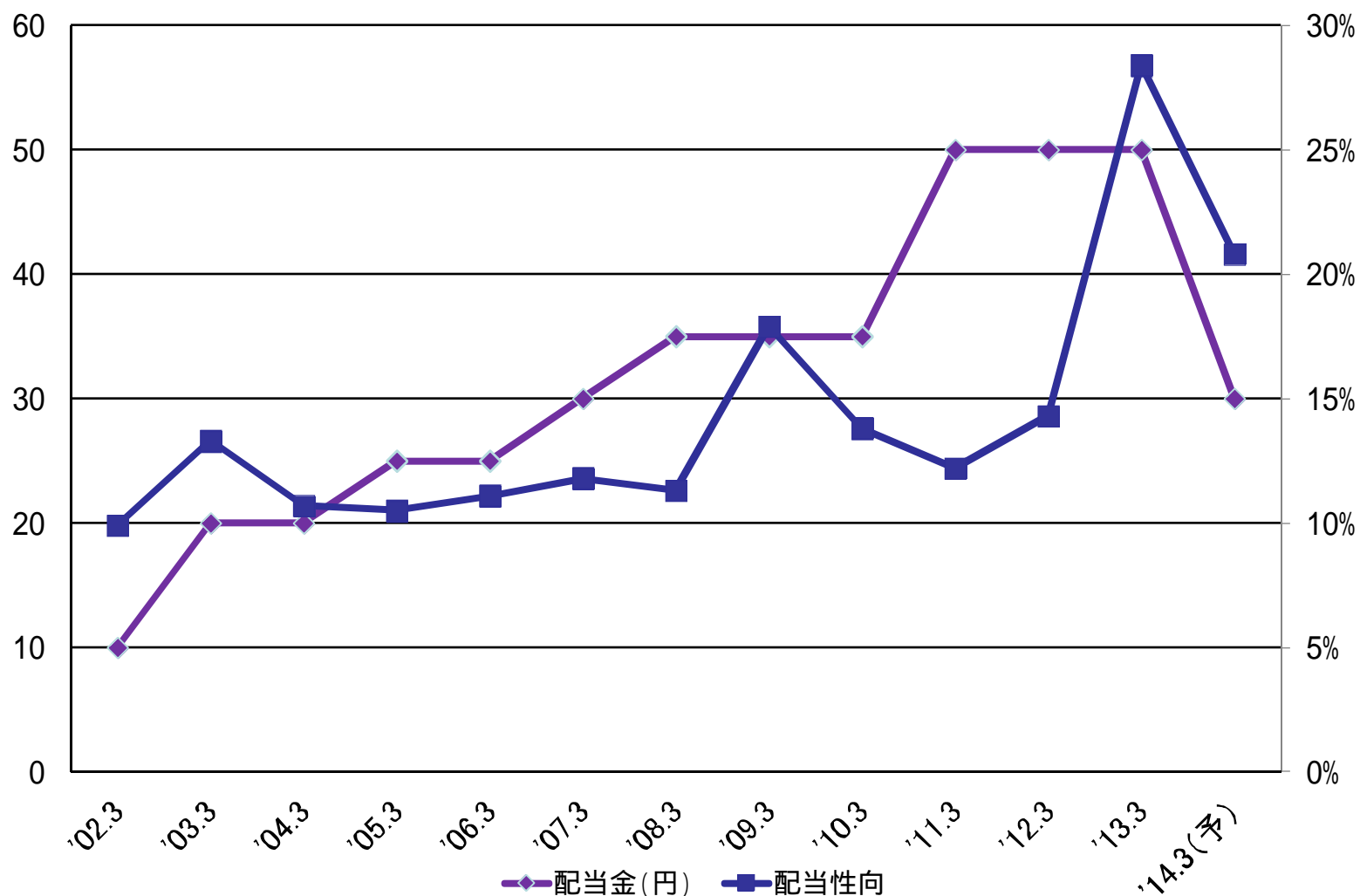
- 中国ビジネスの拡大に伴い、
与信等の管理分野の強化
- 海外ビジネスに対応できる人
材の育成強化

配当計画 (1株当たり)



連結配当性向は20～30%を目処。

(単位:円)



ご清聴ありがとうございました

